

編集・発行責任者;木下耕一 〒157-0066 東京都世田谷区成城 8-24-1 - A -201
Fax&Tel 03-3482-5257 / E-Mail ; kino-coh1@amy.hi-ho.ne.jp

【僕のたましろの郷】を思ってみた

あけましておめでとうございます。
今年は、どんな年になるのでしょうか?
このファクス・ニコース
は、かたつむりやわらつ重複
の仲間たちを取り巻く様々
の問題や情報をより大勢の
人に伝えていきたいと思い
始めました。

実は、こうした趣旨も曖昧なままスタートし、年末
始の休みの間に資料整理
をするとともに、考えに考えてようやく方向性が見えてきたのです。
やっと4号ですが、思いがけず「地元自治会の同意
が得られた」とのニコース
が届き、これから活動に
微かな希望の朝日が差し込んだ新年の気分でした。
前号でお知らせした十二月二十日にお開かれた『かたつむりの仲間たちがどんなたましろの郷

つむじ事業報告会』で花田さんから説明のあった“たましろの郷建設に向けての五つのステップ”を考えると本年の一月二月には、地元自治体である青梅市の施設建設特別委員会(審議会?)が第一ハードルとして待ち受けています。

そして、同時に、どのようなくまの郷を作つていいのか?あるべきたましろの郷の姿を描き出す『開設委員会』の設置を進めていかなければなりません。これには『施設作りの専門家の意見が尊重されるのはもちろんのことですが、我々ボランティアの立場からも学習活動を進め意見を言える力を培つていく必要性を感じています。

また、かたつむりの仲間たちがどんなたましろの郷

を望んでいるのか?彼らの声がストレートに施設作りに反映されるような組織作りを奢えていかなければならぬのではないかと思います。

それは、当初『社会福祉法人化運動』として始めた法援会活動とともに接点を作業所かたつむりとの接点をどのように求めていくのか、という問題でもあります。

施設ができる事によって社会福祉法人格を取得できることは東京のるつあ運動にとって重要な問題ですが、施設作りは単なる箱づくりではありません。立派な建物よりも、そこでどんな労働や生活が営まれるのか、仲間たちや親たちがどんな人生を送れるようになるのか、そして、それを支える人の和をどう深め広げていくのかという理念・理想な

くしては、これから施設作り運動は進まないと思います。
なんか、政治家の所信表明演説みたいになってしましました。
お正月休みに考えた事は、僕一人では、結局かたつむりに対してもできないこと。(謙虚になら)だから、団体やサークルといつた枠にとらわれずに、いろんな人と会って、僕の思いをたくさん伝えて、大勢の人と一緒にかたつむりを応援するんだということ。(緩やかなネットワークづくり)

そして、最も大切な事は仲間たちを中心にして、からの活動を組み立てていく、かたつむりの現場から僕自身を育てていきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いします。

